

秋田県
退職校長会

会報

題字 秋田師山 書

第 101 号

秋田市手形学園町1-1
秋田大学教育文化学部
同窓会旭水會 内

令和5年7月29日 発行

秋田県退職校長会



中学校の部活動の行方

秋田県退職校長会 会長 高橋 一郎

秋田市の教育行政について秋田市教育委員会の長谷山教育次長からお話を伺う機会がありました。その中で、国の強い指導事項として打ち出された部活動移行に関する内容がありました。

少子化に伴い学校単位から地域単位へ、教員の負担軽減を図るための地域スポーツ・文化芸術団体の活性化が部活動移行の理由であると教育次長は説明しています。国は、令和5年度から7年度までを改革推進期間として地域に移行するとしています。しかしながら、スポーツや文化芸術の受け皿はどうなるのか。教職員の勤務体制は変化するのか、学校以外からの指導者はどんな待遇でどんな権限が与えられるのか。中体連はどのように大会運営を行うことができるのか、保護者の役割・負担はどうなるのか、関係するたくさんの方々の理解は得られるのか、などなど、心配することは多々あげられます。もともとは少子化に端を発した問題なのです。学校の部活動や地域で行っているスポーツ活動、文化芸術活動に匙を投げるような問題ではありません。

かなり昔から部活動を地域スポーツに移行してはどうかという話がありました。

昭和四十年代に教職に就き、管理職になるまでは、学業と部活動は車の両輪のように常に職業として意識したものです。とはいえ、経験を重ねるうちに、部活

動が教職の大きな部分を占めてゆくことに、少しずつ疑問を持ち始めたのは事実です。毎日遅くまで活動し、まして土曜・日曜、祝日までの時間を費やすことに対する疑問でした。本来、教職の大事な部分は、集団と個人の人間形成であり、社会生活を送るための教養を培うことです。そして、教員生活の多くを占めるのは、学習指導と生徒指導だったはずで、部活動に時間をとられ、十分な準備をしないままに授業に向かうときは、恥ずかしい瞬間でした。

地域スポーツに移行するのは、基本的には賛成です。しかし、どのように移行できるのか。

関係する団体には、学校、中体連、スポーツ少年団、民間の各種連盟や個人営業の道場、ボランティア活動団体などがあります。それらの団体をまとめて各種スポーツや文化芸術の活動が推進されてゆくものなのか。大会運営は成果をあげてゆくことができるのか。

これから、三年間をかけて審議してゆくことでしょーし、移行すると決断したのだから、まずやれるところから実績を上げてゆくことになるのだと思います。

我々、退職校長会は、どのように学校を応援できるかを考えてゆかなければなりません。もしかすると、学校の枠を超えたところで、応援することになるのか。情報を交換しつつ、本質を極めた議論になるよう心しておくべきことです。

「生涯青春」長い間、職場でお茶を飲むマガカップに印刷されているこの言葉が好きである。青春とは人生のある期間ではなく、心の持ち様だと思う。薔薇の面差し、紅の唇、しなやかな手足ではなく、逞しい意志、豊かな想像力、燃える情熱、青春とは人生の深い

泉の清新さであり、臆病を退ける勇氣、安きにつく気持を振り捨てる冒険心である。歳月は皮膚にしわを増すが、熱情を失えば心はしばむ。年を重ねただけで人は老いないが、理想を失うとき初めて老いる。何歳であろうと人の胸には、驚異

ひとこと



「初心不可忘」

秋田県退職校長会

常任理事 伊勢善和

があるのかもしれない。「♪青春時代の真ん中は 道に迷っているばかり♪」

能の大家 世阿弥の秘伝書『花鏡』に「是非初心忘るべからず 時々初心忘るべからず 老後初心忘るべからず」とある。これを見るとあまり知られていないが、初心には三つあり、第一は、若い時の芸を覚えていれば、後々さまざまに有益である。第二の「時々」の初心忘るべからず」とは、修行にはそれぞれの段階があり、その時々を忘れるなどと言っている。第三は「老後の初心」、功なり名を

遂げて老境に至った。しかし、芸に終点はなく老後と言えどもその人にとっては初めてのこと、老境には老境の芸があり、それを身に付け、芸の終点を見せずに生涯を終えることが「奥義なり」と何やら教職の世界にも相通じるものがあるような気がする。

現代で世間一般に言われる「初心忘るべからず」は「新入生、新入社員、新婚カップルそして、初任者などに対して、今の感激、決意、純真な気持ちをいつまでも忘れずに持ち続けよ」という一番目の意味で使われているが、私の年齢く

らいだと三番目の「老後の初心」にも関心が湧く。「老後に及んでもなお初心を忘れるな」とは何を意味するか。心身ともに次第に

衰え、終点が見えてくる時期、残された限られた時間をどう生きるか、人それぞれに想いがある。未経験の新しいことに挑戦する最後のチャンスと捉える人、心身が健全である限り社会のために尽くしたいと思う人、今までの延長線上で無理せず無難に生きたいと思う人等々、いずれにしても最後は自分の納得のゆく生き方をしたいものである。

「若くして学ばば、壮にして為すところあり。壮にして学ばば老にして衰えず。老にして学ばば死して朽ちず。」斯くありたい。

令和5年度新入会員の紹介(敬称略)

〔大館北秋田〕

安部 芳範	田山 淳	村上 清秀
貝森 逸子	中村 修	

〔能代市山本郡〕

高橋 直樹	松田 武	佐藤 克
平澤 秀樹	菊地 天	

〔男鹿市〕

加藤 和彦	三浦 喜博	戸田 信彦
一関 隆則	船木 和則	

〔秋田市〕

稲田 修	齋藤 渉	奈良 恵子
小玉 智	渡辺 政文	濱松 寿

〔由利本荘・にかほ〕

加賀谷 亨	嶋崎 公人	
戸賀瀬晃久	大庭 了	小園 敦

〔大曲仙北〕

板垣 洋	木内 潤	熊澤 耕生
尾留川 昭	佐藤 健	畠山 純

〔横手市〕

金子 徹章	佐藤 英樹	三浦 健誠
高野 一志	藤田 寿	梁田 一史

〔湯沢雄勝〕

北條 保	小松 亨	江畑 譲
高橋 成浩	島田 誠	新田 義孝

〔榎本〕

榎本 達	富谷 祥彦	大沼 一義
------	-------	-------

令和5年度秋田県退職校長会 理事会・総会

4年ぶりに表記の会が五月十一日(木)協働大町ビルで開催された。

総会では、前回の総会以降お亡くなりになられた会員へ全員で黙祷を捧げた後、初めに高橋一郎会長からあいさつがあった。

【高橋一郎会長】

三年間書面決議であった。今年度は今まで通り実施したい。このブランクは大きいが、頑張っていきたい。県退職校長会は令和元年に50周年を迎えた。たぶん各郡市も節目の時を迎えると思うが、心から祝意を述べたい。全連退は6月に実施する予定である。東北大会も仙台市で実施される。いずれも通常通りの開催の予定である。とても喜ばしい。

高橋会長のあいさつに続いて二名のご来賓の方々から祝辞を頂戴した。

【県教育庁義務教育課伊藤悟チームリーダー】

入学式ではマスクが個人の判断に委ねられたこともあって、久しぶりにマスクなしの笑顔が見られた。アフターコロナでは、前例や固定観念にとらわれない新しい発想や大胆な方向転換が必要だ。一方で守るべきものは守る、継続すべきは継続するというメリハリの取組を期待したい。

①ICTを活用した授業改善支援事業を実施している。県内6つのモデル校すべてで公開授業を予定しており、その成果を広く発信

するためのオンラインミーティングを7月10日に開催予定である。またICT活用リーダー研修を三年計画で実施する予定であり、秋田の探究型授業における効果的なICTの活用について追求していきたい。

②不登校・いじめ等の生徒指導に対する対応が重要である。全国的にこの解決には一刻の猶予もない。全ての子供たちが、安心して楽しく通える学校を目指したい。家庭、地域、専門的な知識を持つ機関が協力して、社会全体で見守るしくみを整えていきたい。またSWの活動の充実、SNSや相談電話で対応の充実を今以上に図っていきたい。

【小島孝志県小・中学校校長会副会長】

県校長会総会は、引き続き対面ではなく書面決議となった。5類への移行に伴い、学校現場ではインフルエンザ同様の対応となった。学級閉鎖は校長判断となる。コロナ対応はとも現場にとっては大変であった。

校長、教頭はもちろん教諭の退職者数が増加し、同時に再雇用者数の増加、若手教員の増加の傾向がある。現場では若返りが進んでいるが若年教員の育成に課題がある。働き方改革も進められてはいるがなかなか成果が上がっていないのが現状である。

日々の教育活動は困難を極めている。いかに教員の負担の軽減に努め、諸課題を解決するか苦悩している。これまでのその時々の課題を解決してきた退職校長会の皆様のお力をお貸しいただきたい。

〔議事〕

その後、大山重幸秋田市理事を議長に選出し、次の議案について審議した。

- ①令和四年度会務報告
- ②令和四年度監査報告及び決算について
- ③令和五年度事業、活動計画(案)について
- ④令和五年度予算(案)について

(含本年度会費の確認)

- ⑤役員について
- ⑥組織について
- ⑦その他

・県南教育懇談会について

大曲仙北の渡邊会長から、横手市・湯沢雄勝との合同で実施していた県南教育懇談会について、本年度より個別に実施する旨の報告があり、承認された。

・東北大会について

米澤事務局長から、東北大会で割り当てられている各県の発表について、本年度の宮城大会においては、本県の各郡市連合体としての退職校長会の活動についてその特色と概要を報告したいとの提案があり承認された。

すべての議事が滞りなく承認された後、感謝状の贈呈があった。本年度は、大館北秋田退職校長会の佐藤久生事務局長に贈呈された。

総会後に行われた懇親会では、三十四人の参加を得て久しぶりに近況を報告し合い、和やかに懇親を深めることができた。

令和 4 年度 会 計 決 算 書

収入総額 2,589,470円
 支出総額 1,827,396円
 差引残額 762,074円

【収入の部】

(単位：円)

項 目	本年度予算額	本年度決算額	増 減	付 記
1. 負 担 金	1,875,000	1,905,000	30,000	1,500 円×1,270 人
2. 特 別 協 賛 金	0	0	0	
3. 繰 越 金	684,460	684,460	0	令和 3 年度より繰り越し
4. 雑 収 入	10	10	0	貯金受取利子
合 計	2,559,470	2,589,470	30,000	

【支出の部】

(単位：円)

項 目	本年度予算額	本年度決算額	比較増減	付 記
1. 会 議 費	110,000	37,720	-72,280	
(1) 総 会 費	40,000	12,210	-27,790	資料等・資料送付切手代
(2) 理 事 会 費	30,000	6,020	-23,980	資料等送付切手代
(3) 監 査 会 費	20,000	19,490	-510	会場費・交通費
(4) 事 務 局 会 費	20,000	0	-20,000	
2. 業 務 費	350,000	133,260	-216,740	
(1) 旅 費	300,000	93,260	-206,740	全連退、東北協議会
(2) 慶 弔 費	50,000	40,000	-10,000	表彰者祝い金
3. 事 務 費	270,000	243,080	-26,920	
(1) 通 信 費	100,000	84,613	-15,387	会報等送料 発送用具等
(2) 消 耗 品 費	40,000	15,633	-24,367	紙 封筒 インク等
(3) 雑 費	25,000	72,892	47,892	筆耕料・感謝状用紙・額縁、賀詞印刷・発送等
(4) 事 務 局 費	25,000	32,942	7,942	事務局通信費、コピー、教職員録等
(5) 報 償 費	80,000	37,000	-43,000	事務局会交通費
4. 事 業 費	1,080,000	885,336	-194,664	
(1) 教育懇談会費	60,000	60,000	0	大館北秋田、由利本荘・にかほ、湯沢雄勝へ(各20,000円)
(2) 秋季研修大会費	100,000	35,676	-64,324	講師謝金、懇親会費、研修会案内
(3) 調 査 費	10,000	0	-10,000	
(4) 会 報 印 刷 代	280,000	211,200	-68,800	県会報印刷費(2回)
(5) 郡市連絡協議費	100,000	0	-100,000	
(6) 郡市研修活動費	250,000	254,000	4,000	郡市へ200円×納入者数(1,270人)
(7) 「教育の日」活動費	50,000	50,000	0	「あきた教育の日」はがき作成・送付
(8) 郡市会長会会議費	30,000	74,460	44,460	会長・事務局長合同の会会議室料、交通費
(9) 記念事業準備金	100,000	100,000	0	特別会計へ(節目の年の記念事業経費)
(10) 東北大会準備金	100,000	100,000	0	特別会計へ(東北協議会秋田大会準備経費)
5. 負 担 金	520,000	528,000	8,000	全国(400円×1,270人)、東北(20,000円)
6. 予 備 費	229,470	0	-229,470	
合 計	2,559,470	1,827,396	-732,074	

令和5年度 収支予算書

収入総額 2,607,084円
支出総額 2,607,084円
差引残額 0円

【収入の部】 (単位：円)

項 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減	付 記
1. 会 費	1,845,000	1,875,000	-30,000	1,500 円×1,230 人
2. 特 別 協 賛 金	0	0	0	
3. 繰 越 金	762,074	684,460	77,614	令和4年度より繰り越し
4. 雑 収 入	10	10	0	貯金受取利子
合 計	2,607,084	2,559,470	47,614	

【支出の部】 (単位：円)

項 目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減	付 記
1. 会 議 費	195,000	110,000	85,000	
(1) 総 会 費	100,000	40,000	60,000	資料、交通費等
(2) 理 事 会 費	55,000	30,000	25,000	資料、交通費等
(3) 監 査 会 費	20,000	20,000	0	会場費、交通費等
(4) 事 務 局 会 費	20,000	20,000	0	会議費等
2. 業 務 費	350,000	350,000	0	
(1) 旅 費	300,000	300,000	0	全連退、東北協議会他
(2) 慶 弔 費	50,000	50,000	0	慶祝・弔意、表彰
3. 事 務 費	290,000	270,000	20,000	
(1) 通 信 費	105,000	100,000	5,000	会報等送料、発送用具等
(2) 消 耗 品 費	40,000	40,000	0	紙、封筒、インク等
(3) 雑 費	30,000	25,000	5,000	筆耕料、謝礼 他
(4) 事 務 局 費	35,000	25,000	10,000	事務局通信費、コピー、印刷費等
(5) 報 償 費	80,000	80,000	0	事務局会等交通費
4. 事 業 費	1,146,000	1,080,000	66,000	
(1) 教育懇談会費	60,000	60,000	0	能代市山本郡・秋田市・大曲仙北へ各20,000 円
(2) 秋季研修大会費	100,000	100,000	0	会場費、講師謝礼、資料等
(3) 調 査 費	10,000	10,000	0	調査等に係る経費
(4) 会 報 印 刷 代	230,000	280,000	-50,000	県会報印刷費(2 回)、関係資料代
(5) 郡市連絡協議費	100,000	100,000	0	郡市総会・郡市研修会への派遣費
(6) 郡市研修活動費	246,000	250,000	-4,000	郡市へ200 円×納入者数(1,230 人)
(7) 「教育の日」活動費	50,000	50,000	0	「あきた教育の日」関連活動費
(8) 郡市会長・事務局長合同会議費	100,000	30,000	70,000	交通費、資料等
(9) 記念事業準備金	100,000	100,000	0	特別会計へ(節目の年の記念紀要作成等)
(10) 東北大会準備金	150,000	100,000	50,000	特別会計へ(6 年周期東北秋田大会用)
5. 負 担 金	512,000	520,000	-8,000	全国(400 円×1,230 人)、東北20,000 円
6. 予 備 費	114,084	229,470	-115,386	
合 計	2,607,084	2,559,470	47,614	

令和 4 年度 特別会計決算書

収入総額	583,513 円
支出総額	0 円
差引残額	583,513 円

【収入内訳】

1	前年度繰越金	383,512 円
2	記念事業準備金	100,000 円
3	東北大会準備金	100,000 円
4	受取利子	1 円
	合計	583,513 円

【支出内訳】

・支出項目なし

合計 0 円

※ 上記の残額 583,513 円については、別冊「特別会計」用の通帳に、貯金保管中である。

令和 5 年度 秋田県退職校長会役員一覧

◆県【事務局所在地】 〒010-8502 秋田市手形学園町1-1 秋田大学教育文化学部「旭水会」内 TEL/FAX 018-831-2783

顧問	佐藤 重義	千葉 昭	佐藤 俊彦
会長	高橋 一郎		
副会長	望月 伸哉	安倍 武義	渡邊 義實 伊藤 栄二（会長職務代行者）
常任理事	伊勢 善和	伊藤 章	古関 俊勝 高田 均
理事	各郡市から 1 名（但し、秋田市から 3 名） 下記のとおり		
監事	松山 敬悦（能代市山本郡）	八柳 知徳（男鹿市）	菊谷 隆志（横手市）
事務局長	米澤 喜彦		
事務局員	茜谷 英也 齋藤 透	高橋 澄雄 工藤 隆	工藤 絹子 石郷岡仁司

◆郡市【会員数】 1,534 名（内名誉会員 298 名） R5.6.12 現在

退職校長会名	会員数	会長	副会長	県理事	代議員
鹿 角	67 (15)	望月 伸哉	下川原常雄	望月 伸哉	戸未 容子・吉田 啓一
大館北秋田	224 (38)	伊勢 善和	小笠原友行・菅原 朋雄 明石 勝美	伊勢 善和	小笠原友行・菅原 明雄 明石 勝美・佐藤 久生
能代市山本郡	187 (35)	佐藤 敬頭	松山 敬悦・近藤 和雄 竹内 秀樹・佐藤 智子	佐藤 敬頭	松山 敬悦・近藤 和雄 竹内 秀樹・佐藤 智子
男 鹿 市	59 (7)	伊藤 章	村木 康子・浅井 繁樹	伊藤 章	村木 康子・浅井 繁樹
秋 田 市	247 (47)	高橋 一郎	伊藤 栄二・高田 均	羽川 誠 濱田 眞均 高田 均	松山 郁子・松田 行正 斉藤 孝雄・大山 重幸 鎌田 寿和
由利本荘・にかほ	207 (34)	安倍 武義	佐々木 章・三浦 昌弘 三浦 律子・永田 修 菅原 耕悦	安倍 武義	三浦 律子・永田 修 菅原 耕悦・田口 良徳
大曲仙北	231 (55)	渡邊 義實	柴田 政幸・千田 文和 高橋 正彦・小原 靖 山崎 敏	渡邊 義實	高橋 正彦・小原 靖 山崎 敏・佐藤 心一
横 手 市	193 (46)	古関 俊勝	菊谷 隆志・佐々木孝雄	古関 俊勝	菊谷 隆志・佐々木孝雄 佐藤 稔
湯 沢 雄 勝	119 (21)	大山裕一郎	齋藤千鶴子・門脇 博	大山裕一郎	門脇 博

郡市だより ～退職校長会に寄せる思い～

各郡市退職校長会の総会は、4月の下旬から5月の下旬にかけて例年通り実施されました。コロナ明けとあつて参加者は少なかつたようですが、逆にこの日を待っていたように参加者が増えた郡市もありました。

鹿角

感謝進行中

田中 節夫

四年ぶりに鹿角退職校長会定期総会が開催された。久しぶりにお会いする皆様の元気そうな様子に安堵した。懇親会で近況を交換し合いながら、諸先輩方の現職時と変わらない熱量に終始圧倒されると同時に、当時の記憶が次々と蘇ってきた。

指導に窮した際の的確な助言の数々、管理職としての在るべき方向性への示唆等々…、今更ではあるが、感謝の念しきりである。

ある書の文中に「人は他に対して施しをするのが務め」と記されていた。この言葉の持つ意味を噛み締め、身の丈に合った振る舞いで本会に関わっていきたいと考えている。

大館北秋田

田園の中で思うこと

安部 芳範

四月、88aほどの田んぼを耕起するところから第二の人生がスタートしました。昨年も経験しているとはいえ、平らにできない代かき、まっすぐ植えられない田植えと、二年目も機械相手の悪戦苦闘は相変わらずです。

「現場」が学校から地域に移り、何ができるか模索中ですが、大館、秋田を元気にすることができれば幸いです。この退職校長会との関わりが、その一助になるものと思い、先輩方の後についていこうと思います。

目下の課題は、田んぼでたびたび遭遇するヘビ。この課題、けっこう切実です。

これからのステージ

田山 淳

地区退職校長会の総会場で新入会員として紹介していただきました。ステージから多くの先輩の皆様を拝見し、これまで教育界にご尽力されてきた実績とともに同職していた当時の出来事や思い出が脳裏によりがえってきました。

退職はまだまだ先の話だと他人事のように思っていました。間違いなく自分にもやってきました。これからの人生第二ステージは、足腰がしっかりしているうちに新しい発見を求めて世界を巡り、会員の皆様と親しくお話ができる日を楽しみにしています。

能代市山本郡

見習いです。よろしく願っています。

高橋 直樹

数年ぶりの総会、お疲れ様でした。退職後も変わらず、温かく精力的な諸先輩の皆様。言いたくありませんが「すごい」です。今後、ご指導のほどよろしく願っています。自分にもできることを見習いながら、過ごしていきたいと思っています。退職後の楽しみと能代市の会計年度任用職員として児童生徒・学校等を支援する役割、この両方を充実させていきたい、というのが今の願いです。

同時に、諸々の整理を、家内の言うことをよく聞いて実行します。今後のやりたいことの整理も。まだ、とっ散らかっています。

働けるうちが花？

平澤 秀樹

四月から藤里町立義務教育学校藤里学園に講師（臨時）として勤務し、4年生から9年生までの音楽の授業と吹奏楽部の指導を担当しております。諸先輩に「働けるうちが花」と励まされながら、今年度は頑張っていこうと思っています。

昨年度は、退職したら「あれをやろう、これもやろう」といろいろ妄想していたのですが、退職校長会の諸先輩のご助言を聞きながら、来年度以降の計画を立てていこうと考えています。今後とも、ご指導の程よろしく願っています。

男鹿市

よろしくお願いします

加藤 和彦

この三月、三十七年間の教員生活を無事？終えました。学校現場での最後の三年間は、コロナ禍での様々な対応が求められることとなり、職員や生徒とともに、創意工夫と各方面の協力を得ながら何とか乗り越えられたことに深い安堵感を覚えたところです。

かねてより退職を清々しい気持ちで迎えられるべく考えていましたが、実際に退職を迎えた今、様々な重圧からも解放され、ある種の清々しさを感じながら日々過ごしています。今年度より退職校長会の一員となりましたので、どうぞよろしく願いいたします。

第二の人生のスタート

船木 和則

高校長として年度末の慌ただしい事務処理を終え、四月から首都圏の企業でお世話になっております。

とはいえ、勤務地は男鹿市であり、出勤・テレワーク・出張と忙しい日々が続いておりました。ここに来て、ようやく仕事にも慣れてきたところです。

退職校長会の皆様にはこれまで本当にお世話になりました。今は教育とは全く違う世界で仕事をしておりますが、これからも退職校長会の活動の中で、ご教示いただければと思います。よろしくお願いします。

秋田市

人とのつながりは財産

稲田 修

毎朝、子どもたちと交わっていた挨拶がでなくなつたことで、自分が退職したことを実感しています。教員生活を振り返ると、多くの出会いがあり、そのおかげで、人とのつながりが広がりました。教員として歩んでこられたのも、人とのつながりがあったからだと感謝しています。人とのつながりは自分にとって大きな財産であり、これからも大切にしていきたいと思っています。

四月からは、秋田市の太平山自然学習センターに勤務しています。退職校長会の皆様、これからどうぞよろしく願いいたします。

新たな喜び

齋藤 渉

コロナ禍の教育活動をはじめ難しい判断を迫られる度に、いつも示唆に富んだ情報をくださった校長会。退職後もこのつながりを大切にし、貴重な経験や知識を共有させていたきたいと考え、入会いたしました。

春から、学校を休みがちな子どもたちを支援する仕事に就いています。長く授業から離れていたため指導力の低下は否めず、学び直しに取り組む毎日。それでも直接子どもとふれ合えることに大きな喜びを感じています。退職校長会の皆様、どうかよろしく願いいたします。

由利本荘・にかほ

第二の人生のスタートにあたって

佐藤 健

三十六年間の教職生活にピリオドを打つ日が来るとは、頭では分かっていたつもりではいましたが、気持ちがついて行かぬまま三月三十一日を迎えました。現在は、にかほ市に新しく開設した教育支援センター『はすてる』に勤務し、子どもの居場所づくりを目指しています。毎日八時から十六時半までの勤務で、子どもも五月から登校しておりますので、淋しくはなく、毎日大変充実した日々を過ごしております。これから、諸先輩方には大変お世話になるとありますが、心強く思っておりますので、何卒よろしく願いいたします。

お役に立てるよう努めて参ります

高野 睦

六十歳定年最後の年に退職を迎え、この春からは初任者研修統括指導教員として四校に勤務しています。どの学校に行っても、子どもの声に耳を傾け、子どもと一緒に頑張っている教職員の姿に出会うことができ、初任研を通して日々元気をいただいております。

四月下旬に開催された由利本荘・にかほ退職校長会総会では、新入会員として仲間入りさせていただきました。先輩方のように、世のため人のため子どもたちのために役に立つ第二の人生を送りたいと思います。ご指導よろしく願いします。

大曲仙北

GG会で “一玉入穂”

坂本晋平

私は昨年・玉穂会（大曲仙北退職校長会）グラウンドゴルフ同好会（以後GG会）へ入会させていただきました。初心者で道具もない私でしたが、大先輩から教えていただき、和気藹々と楽しくラウンドすることができました、そして今年からGG会の事務局を引き継ぐことになりました。GG会は年2回の大会を開催しており、今年で73回を迎える伝統ある会でもあります。今後100回記念大会への参加を目標に精進する所存です。県退職校長会と共に、玉穂会、GG会が更に実りある会になっていくことを心より願っています。

新たな職務に感謝

三浦健誠

三十七年間、大過なく教職生活を終えることができました。その間、出会った方々全てから、熱い想いを数多く頂戴いたしました。

第二の人生では、その教えを「恩を返し」するのではなく、様々な機会を通して「恩送り」したいと思い、お声がけいただいた、大仙市教育委員会にお世話になっております。

職務は「部活動地域移行支援コーディネーター」です。今まさに中学校部活動改革の命を受け、取り組んでおります。学校現場や地域の実態をご存じの先輩等からご支援をいただきながら、難題をクリアしていく所存です。

横手市

これからも牛歩の如く

高橋成浩

関係機関や地域の方々、そして、勤務校の職員など、たくさんの人たちに支えられて、なんとか四月一日を迎えることができました。小さな安堵感が開放感に変わっていくのを実感しながらも、少し気を引き締めて現在の職務に向かっているところです。

四月から支援学校の地域センターに勤務しております。自分にとって、最も経験が少なく、研修も不足している業務のようです。しかし、不安を抱きつつも、新鮮な気持ちで牛歩の如く進んでいきたいと思っておりますので、今後のご指導よろしくお願い致します。

0歳から十八歳まで

江畑譲

たくさんの方々を支えられた教職生活。小学校、中学校そして中高一貫校に勤務し、七歳から十八歳までの児童生徒と関わることでできたことに自己満足していました。

しかし、それだけでは終わらない人生が新たにスタートしました。四月より横手市教育委員会に教育・保育アドバイザーとして勤務しております。就学前施設への訪問が多く、とても新鮮な毎日です。目の前の子どもたちは0歳から六歳。「満足するには、まだ早い」でしょうか。これからもご指導お願いいたします。

湯沢雄勝

新たな一步を踏み出して

榎本達

四月から、十三年ぶりに学級担任となり、小学校四年生の子どもたちと充実した生活を送っています。管理職として授業等を見ると、「自分ならどうするか」ということを常に考えてきました。現在、「自分が学級担任をするのならこんな学級にしたい」とイメージしてきたことを実現するため、日々必死に過ごしています。体力的にはとてもきついです。が、とても楽しく過ごすことができています。やはり子どもが好きなのだなあと、強く感じるこの頃です。

よろしくお願いいたします。

第二の人生を通じて

富谷祥彦

退職して約二ヶ月がたちました。この間、ゴルフに500歳野球に庭仕事に畑仕事に家の片付けに…、充実した忙しい毎日を過ごすことができています。まだまだこれから、釣りに登山に自転車に…やってみたいことがたくさんあります。体が元気なうちにいろいろなことにチャレンジしたいと思っています。

こんなふうに第二の人生を楽しめるのも、長年お世話になったたくさんの方々のおかげだと感謝しています。自分にできる恩返しを探りたいと考えていますので、今後ともご指導よろしくお願いいたします。

現職&退職校長会の主な動き

現職校長会情報

(1) 秋田県小・中学校長会定期総会

五月十六日(火)に開催された標記の会は、書面表決で行われ、令和五年度の新役員が次のとおり決まりました。

【小 学 校】		【中 学 校】	
役職	氏名 (校名)	氏名 (校名)	
会 長	小島 孝志 (港 北)	谷村 格 (泉)	
副会長	村山 公昭 (築 山)	坂谷 陽 (秋田東)	
"	中井 淳 (長 木)	奈良 育 (小 坂)	
"	佐藤 睦子 (岩 城)	山田 敬輔 (天 王)	
"	木村 司 (横手南)	加藤 勝則 (大 曲)	

小・中学校長会長には、谷村格氏が選出されました。

令和四年度末に退職を迎えられた会員は全県で七十三名です。

(2) 秋田県小・中学校長研究大会

標記の会が次のような日程・概要で開催される運びです。

日時 令和五年八月十七日(木)
会場 秋田県総合教育センター

秋田県自治研修所

主題

「未来に向かって夢はばたかせ、たくましく生きる児童生徒の育成」

右記主題のもと、午前は開会式及び講演会、午後からは小学校 4 分科会、中学校は 3 分科会が行われます。

講演

演題『夢を夢としない』

講師 映画監督・CMディレクター

成 田 洋 一 氏

なお、本年度の研究大会は、現職会員だけで開催することとしました。

(3) 本年度の東北大会(小・中)

◆東北連合小学校長会研究協議会山形大会

日時 令和五年七月六日(木)～七日(金)

会場 やまぎん県民ホール

主題

「自ら未来を拓き、ともに生きる豊かな社会を創る日本人の育成を目指す小学校教育の推進」

◆東北地区中学校長会研究協議会福島大会

日時 令和五年六月三十日(金)

会場 会津若松ワシントンホテル

(参加者はZOOMによるWeb協議)

主題

「新たな時代を切り拓き、よりよい社会を形成していく日本人を育てる中学校教育」



退職校長会情報

(1) 全連退理事会・総会

令和 5 年 6 月 6 日(火) 7 日(水) 全連退

理事会・総会が、東京都「きゅりあん」(品川区立総合区民会館)で開催された。秋田県からは高橋一郎会長、伊藤栄二副会長、高田均常任理事、米澤喜彦事務局長が参加した。

開会行事における会長あいさつは入子祐三会長が体調不良のため、代理で田中総務部長のあいさつとなった。

次の議事が提案され、様々な意見や要望も出されたが、全て承認された。

- ① 令和 4 年度会務報告
- ② 令和 4 年度決算報告・監査報告
- ③ 令和 5 年度役員の承認
- ④ 令和 5 年度活動目標・事業計画
- ⑤ 令和 5 年度予算
- ⑥ 総会宣言の採択

議事の途中で新役員が提案され、新会長が承認された。

新会長・田中昭光(あきみつ) 東京都 7 日(水) 午後からは、一般社団法人教科書協会情報化専門委員会 長谷部直人委員長より「デジタル教科書の現状と今後の課題」という演題で講演があった。

(2)「郡市会長・事務局長合同の会」開催

―主な協議内容から―

七月八日（土）に昨年に引き続き「郡市会長・事務局長合同の会」が秋田市の協働大町ビルを会場に開催された。会議での協議の概要は次のとおりである。

①第43回秋季研修大会について

十月二十一日（土）

協働大町ビルにて開催。九月上旬に案内を発送する予定。

②各地区の現状や課題について

今年度の加入状況や新会員加入のための手立てや段取り等、各地区の成果と課題について積極的な情報交換や意見交換がなされた。

③あきた教育の日について

今年度も九月下旬を目処にハガキで各小・中学校等へ周知する予定。

④理事会・総会の開催日について

総会に於いて高橋会長より検討の要請があったもので、令和六年度の理事会・総会は、令和六年五月十一日（土）に開催することと合意を得た。

⑤会費等の振込について

今年度より秋田県退職校長会の口座に直接振り込む形となった。その際発生する振



込手数料については各都市負担でよいのではないかとの提案があり、了承された。その後昼食会を兼ねた懇親会が二十名の参加のもと、盛大に執り行われ、和やかな雰囲気の情報交換等がなされた。

(3)東北地区退職校長会協議会宮城大会

令和五年十月十二日（木）十三日（金）に宮城県仙台市で開催予定であったが、7月に入って宮城県より一日開催とする旨の一次案内が届き、令和五年十月十二日（木）に仙台市「ホテル白萩」で開催予定である。

第43回秋季研修大会開催案内

【日時】 令和五年十月二十一日（土）

午前十時二十分～

【会場】 秋田市協働大町ビル

【主題】 「退職後の生きがいや

在り方をもとめて」

【日程】

開会式 10時20分～10時45分

講演 10時45分～11時55分

講師 「 未定

演題 「 未定

発表 12時～13時00分

担当地区 大館北秋田・男鹿市

発表題及び発表者は検討中です。

会員のご逝去（敬称略）

心からご冥福をお祈りいたします。

（10号以降）

氏名 年月日 住所

宮崎 博文 5・5・16 大館市字長倉

黒澤 正吾 5・5・27 大館市中神明町

山本 陽一 5・6・2 大館市花岡町

岩井 貫次 5・4・29 能代市彩霞長根

（従六位）

大堤与三郎 5・3・29 男鹿市払戸

鈴木 衛 5・3・7 由利本荘市船ヶ台

（従五位瑞宝小綬章）

佐藤 武三 5・3・18 にかほ市金浦

野田口 卓 5・5・30 由利本荘市川口家妻

竹村 貢養 5・1・23 大仙市橋本

進藤 俊輔 5・3・20 大仙市太田町三本扇

和田 文雄 5・5・5 大仙市協和上淀川

加藤 義男 5・3・22 美郷町金沢

相馬 紀夫 5・5・17 横手市本郷町

中鉢 正雄 5・5・18 湯沢市愛宕町

（正六位）

石川陽太郎 5・6・5 湯沢市岩崎

会員の寄稿

退職後の生き方を考える



鹿角 佐藤 亨

中学校教員として三十八年間、鹿角市教育委員会では六年間のキャリアを終え、この三月に一区切りとなった。今回の寄稿を機に、これからの生き方（楽観的でマイペースな人生）を考えてみた。

【社会貢献活動】諸先輩の退職後の様子を見ると、何らかの社会貢献活動に身を置いている方は、総じて若々しく見える。私も、現在、ジャンプスポーツ少年団長、秋田県スキー連盟理事長等々、様々な活動をしている。今までの恩返しのためでやっていきたい。

【断捨離】これからの人生を豊かに生きるための必須事項と考えている。物を捨てることはもちろん、人との付き合い方、年賀状のやりとりをはじめ、断捨離により身軽な人生に改めることは、むしろ精神的な豊かさに繋がるように思う。

【旅行】一時期、海外旅行に憧れたこともあったが、国内には素晴らしい場所があることを再発見した。現在まだ行つたことがない県が十二県あるが、それを征服することが当面

の目標である。

【スポーツ】スポーツを定義すると「身体活動を伴う気晴らし」である。現在やっているのは還暦野球、ゴルフ、スキーである。超高齢化社会となった現在、スポーツの実践はそれを維持する唯一の手段と思う。スポーツ活動を、できるだけ長く続けるための体力維持も楽しいものである。

【料理】妻がまだ仕事をしていることから、時々夕食を作る。決して嫌いではなく、むしろ楽しさも感じている。聞けば、料理はぼけ防止に最適だそうなので、妻に「おいしい」と言わせるよう頑張りたい。

（平成二十九年三月退職）

発明クラブに関わって



大館北秋田 佐藤 和 広

「大館少年少女発明クラブ」というものに関わって、はや三十年近くになります。現在県内には、秋田市と大館市にしかなく、東北でも二番目に古い歴史をもつ発明クラブです。「発明クラブ」とはいつても、新しい発明や特許をめざす精鋭クラブではなく、ものづくりを楽しむ心と、多少科学的な工夫を取り入れた作品づくり等を通して科学的な見方を養うことをねらいとしています。現在、小

三小六の児童二十四名で、年間三十回程度の活動を、土曜日の午前中、大館郷土博物館で行っています。

いろいろなつくっています。木製ジグソーパズル、板一枚をいろいろな切つて何かをつくる、アイディア工作、未来の科学の夢の絵、ホバークラフト、ロボット製作、ドローン教室やロボットプログラミング教室、他県との交流などなど。子どもたちや保護者には好評です。

毎年子どもたちが代わるので、結構刺激的です。二十四名といえば、まあ一学級ですから、いろんな事があります。退職しても、週に一回子どもたちと関わり続けることができ、個人的にもありがたい活動です。付随して、発明くふう展、県発明協会や東北ブロックとの関わりなど、新たな方々との交流があり、大いなる刺激を受けています。

この発明クラブは、大館市教委、大館商工会議所、市内小学校の現職・OBの先生方の支援・協力等、強固な組織に支えられています。指導員不足で活動を断念されたクラブがある中で、恵まれた環境のもと子どもたちは楽しく製作活動をしています。たいへん有難いことです。いつのまにか、ライフワークのようなものになっているようです。

（平成二十九年三月退職）

旅の愉しみ



能代市山本郡

工藤 文雄

予定表のない日々のアクセントが旅行だ。コロナ自粛の期間を除く実質4年で26回の国内の旅をした。全都道府県制覇もまもなくだ。

私の旅は、ほぼ県や旧国単位で、地図の研究から始まる。その際旧国名はヒントを与えてくれる。旧国境は地形に沿い、旧街道も律令下の納税やその後の特産品の取引、武将や軍兵の移動など人間の活動にかなうように開かれていた。文化や産業の地域間のつながりを理解しやすく、訪ねる名所・旧跡を選ぶ参考になる。現代に至って造られた道筋は、新たな地域間のつながりも感じさせてくれる。今は移動計画もネットでもかなり綿密にできるし、ストリートビューのおかげで旅先でも来たことがある様に移動できるので助かる。

一度の旅に10日前後を費やし、拠点の宿に連泊する。日程に余裕があるので頑張りがない年齢でも健康を保持しやすい。長期的に見れば移動費用の節約にもなる。天候を見ながらの計画変更も柔軟にできる。

夜は居酒屋で当地の料理に地酒をペアリング。お土産は原則自家消費するものが中心だ。

旅の後は、ニュースや旅番組で訪ねた場所

を見ては思い出を温める。家内は旅先での料理の再現を楽しんでいる。旅の記録は、写真や文でホームページ（[まるがお隠居の窓](#)）やブログにまとめる。ボケ防止効果が期待できるのではないかと続けるようにしている。

旅で思うのは、現役諸君にこそゆとりをもった見聞が広まる旅が必要で、仕事の質も高まるのではないかと。この国の忙しすぎる働き手のワークライフバランスを適切にする変革が一層進むことを願いながら、また次の旅の計画を練っているこの頃である。

（平成二十八年三月退職）

高校のICT事情



男鹿市

西村 充司

定年退職後、再任用教諭として母校に赴任して四年目、通算四十年目の教員生活となった。高校生に若いエネルギーをもらいながら、「化学」の授業を行っている。機会をいただいたので、市町村で状況はさまざまだろうが、高校のICT事情を紹介する。

今年度から、県立高校では「統合型校務支援システム」が導入された。これは、教職員の勤務から、生徒の出欠・成績等の管理までのすべてをパソコン上の一つのシステムの中で完結させるというシステムである。

年度初め、生徒の出欠は従来通り紙の出席簿でスタートしたが、我々の勤務管理はすべてパソコン上で行われることとなった。出勤簿に捺印する代わりに、カードリーダーに自分のカードをタッチする。出張や休暇の申請も教員自身がパソコンで行い、管理職もパソコン上でそれを承認する。五月に入り、生徒の出欠や成績もこのシステムに移行する準備が進められており、マニュアルを確認しながら作業しているが、なかなかスムーズにいかず、何度も同じことをくりかえしている。

令和三年度から生徒にクロムブックというタブレット型のノートパソコンが貸与され、昨年度のコロナ禍の学級閉鎖時や、家族が罹患して在宅勤務となった教員のリモート授業時には大きな効果を発揮した。私のように、スマホもケータイと同じ機能しか使っていない者にとってはハードルが上がる一方である。周りの先生方や生徒に助けてもらって何とか必用最小限使っているが、OJT（オン・ザ・ジョブ・トレーニング）の大切さを、身をもって再認識させられている毎日である。

（令和二年三月退職）



ちよつと出掛けてみて・・・



秋田市

平塚和博

今年の3月に仕事の都合で一泊二日で東京へ行く機会があった。所定の用務が終わり、お茶の水から「渋谷」へ向かった。駅の中は、帰宅ラッシュと重なりすれ違う人の歩く速さに驚き、一息するにも渋谷駅が新しく生まれ変わっていて、どこでどうすれば良いか戸惑うばかりであった。切符を買い求める人は私を含めてまばらで、大方の人は改札口でスマホをかざして足早に進んでいた。ちよつと「時代遅れ」ということを痛感した。何とか目的地の世田谷にある桜新町駅に着いた。学生時代に過ごした懐かしい街である。しかし、40年以上が過ぎた街並みは何もかもが変わっていた。まるで浦島太郎の昔話を自分で体験したような気がした。

この5月の連休には、娘のいる仙台へ家内と車で出掛けた。雄勝から鬼首と鳴子、古川まで一般道路を走り、途中休憩を入れながら仙台へ向かった。この日は快晴に恵まれ山並みの新緑が眩しく、またどことなく懐かしい景色に心地よさを感じた。立ち寄った道の駅は、どこも人で混み合っていた。仙台に着き、孫に久しぶりに会いたい一時を過ごすことができた。帰り際に2歳になったばかりのかわいい孫に「バイバイ イヤイヤ、バ

イバイ イヤイヤ」と片言で言われ、後ろ髪をひかれながら秋田に戻ってきた。

ここ数年、コロナ禍で制限が加わり、遠方にある家族と会うことも出来ないこともあったが、こうして出掛けることができるようになったことを嬉しく思う。楽しい時間や目新しい出来事に出合うためにも、今日という日を大事に過ごしていきたい。

(平成三十年三月退職)

タイムカプセルを開けて



由利本荘・にかほ

須田晃司

クローゼットの中に古い段ボール箱を見つけた。開けてみると原書の写しの山だった。学生時代に出会った大きな壁のような知の巨人たちの思想と連珠の言葉の数々。侏儒の如き自分だが、いつか必ず再び手にしようとして度封印した夢の欠片が詰まった箱であった。

退職6年目の春、忘れかけていたタイムカプセルがいきなり開封され、未だ手付かずの有様に愕然とし、情けない気持ちになった。どこかで二十歳過ぎの青臭い小生意気な若造が、薄ら笑いを浮かべながら「お前だらしねえな。」と呟いているような気がした。

退職後の生活を改めて振り返ってみると、この他にも取り組みたいことが幾つもあった

のに「未だできていない自分」に茫然とし、「時間がないぞ。どうする。」という焦りが日増しに強く湧いてくるのだった。

言い訳になるが、「コロナ禍」による社会生活への大きな制限で、学生時代の知己を訪ねる「バイクの旅」も、カナダの友人宅にホームステイしての「語学留学」も、共に許されない状況が続いていたのは事実である。

現役時代は夢や目標の具現化をゴールとしてきた。しかし、今自分に残されている時間は十分ではない。気力や体力が無尽蔵ではないだけに、夢や目標に向かって自分なりにどうアプローチしていくか、その過程が「生きる力」を喚起させてくれるような気がする。まず、手始めに段ボールの蓋を開け、ウエルギリウスが微睡の中で夢見たように、小舟で大海原に漕ぎ出してみることしよう。

たとえ未完のままで終わろうとも、あの若造が意外にも「お前も結構頑張ってるな。」と言ってくれるかもしれない。

(平成三十年三月退職)



週三回の生きがい



大曲仙北

安部 哲 男

我が家には、毎年七月後半になると、この二十一年間で百名以上の中学生が受験勉強のために来てくれている。一度も宣伝したり、募集したりしたわけではないが、受験生が絶えたことがない。人に頼りにされるということは嬉しいことである。子供達の間では、「安部塾」と称しているが、私自身は塾を経営しているつもりは全くない。勿論、月謝など一度ももらったことがないし、もらうつもりもない。こんな田舎なので、私が断れば、せつかくやる気になった子供達の行き場がなくなるし、途方に暮れてしまうと思うと、ついつい断らず八十一歳まで続けてきた。今では週三回の出会いで子供達と学習するのが楽しみであり、生きがいになっている。

五教科全てに精通しているわけではないので、頼れない教師ではあるが、一緒に学び合うことが彼らにとっても楽しいことの一つであるようだ。どの子も机に向かうと学習だけでなく、いろいろな課題を抱えており、自身の失敗体験を伝えたり、励ましたりすることも彼らには楽しい交流になっている。

高校に入学することを最終目標とするのではなく、将来、高校ではどんな暮らしをしたのか、社会に出た時、何の職業を目指した

いのかなど、夢を持ち続けて努力することの大切さを訴え続けてきた二十一年間であった。今では百人の子供達と百個のドラマが蓄積されており、私の大切な宝物となっている。この間、「夢をもつことの大切さ」「人を決めつけて見てはいけない」「人は変わるることができる」を、子供達から改めて教えてもらったことが、私にとって何よりの収穫であった。

(平成三年三月退職)

暖炉のある暮らし



横手 市

清水 勉

十一年前、九十年程続いた酒類小売業を三代目にして廃業、その店舗部分を暖炉のあるリビングにリフォームしました。現役時代は毎土日を中心に薪作りに励み、炎天下の夏には熱中症寸前などということもありました。退職したら、マイペースで、こつこつと楽しく薪作りをしようと思っていたのですが、幸か不幸か、退職五年目の今年度も仕事に恵まれ、土日中心の薪作りは続いています。

薪作りは、雪が消えたら早速始まります。リング農家の皆さんや木を切ったお宅から声をかけてもらうことが多く、わざわざ運んでくれる方もいたり、私自身が軽トラを調達し

出かけたりもしています。また、伐採業者から譲ってもらったこともあります。いただいた丸太はチェーンソーで五十センチ程に玉切りにします。おかげさまで、自宅のあちらこちらには、雪が降る直前まで、丸太がごろごろと積まれている状態です。

今年は雪解けが早く、三月にスタートできたのはよいのですが、がんばり過ぎたのか、職場が変わったこともあったのか、四月下旬に体調を崩してしまいました。年々体力が落ちてきたことを今更ながら知らされました。それでも、一六〇CCエンジン(破壊力二十一トン)の新割機で丸太を裂くときの爽快感はたまりません。また、寒い冬の夜、この薪たちが部屋全体を優しく暖めてくれます。ゆらめく炎を眺めつつ、大好きなミスリーのページをめくる時間を想うと、重い丸太を抱えながらも、思わずほおが緩んでしまいます。今後もできるだけ長く、この至福のひとつが長くよう、時折己の体に問いかけながら、薪作りにいそしみたいと思っています。

(平成三十一年三月退職)



学童保育と栽培活動を楽しむ日々



湯沢雄勝

石 成 久 志

退職して半年後、小学校の一角に学童保育施設を新設するので手伝ってほしいと市福祉課から依頼を受けました。それから約四年、ありがたいことに今だにかわいい小学生たちと関わりを持たせてもらっています。

学童保育職員の一番の役割は利用児童の安全確保ですが、子どもにとっては遊びや活動を通して、多くの上級生や下級生との関わり方を学べる貴重な機会でもあります。少子化や諸々の事情で、近所に遊び友だちを見つけないのは至難になりつつありますが、学童保育ではそんな心配は無用です。

私には拘りを持って取り組んでいることがあります。二年前に学校統合で閉校になった小学校の花壇を借りて、子ども達に作物や花を育てる活動を提供し続けることです。

耕うん機で土を掘り返して石灰・堆肥・肥料を施し、畝を立ててマルチを張れば準備完了。子ども達と一緒にミニトマトやコキア主体の花苗を定植しました。今は緑色のコキアが秋には真紅に染まるはずです。枯れ枝を使って地域住民とほろき作りで交流する構想を練っています。また、昨秋、低学年児童が植えたイチゴの苗が雪解けとともにぐんぐん育ち、質・量・味が十分に揃ったところで早速

おめでとうございます

(順不同・敬称略)

祝 叙 勲

氏 名	現 住 所	功 労	種 類	受章日
工藤 富雄	鹿角市花輪	高齢者叙勲	瑞宝 双光章	5・5・1
関口 慎一	大館市餌釣	高齢者叙勲	瑞宝 双光章	5・4・1
三田 裕	埼玉県朝霞市	教育功労	瑞宝 双光章	5・4・29
岩見 誠夫	秋田市広面	高齢者叙勲	瑞宝 双光章	5・5・1
石黒 善雄	秋田市浜田	高齢者叙勲	瑞宝 双光章	5・6・1
今村 浩一	由利本荘市西目町沼田	教育功労	瑞宝 双光章	5・4・29
藤井 嗣信	仙北市角館町	高齢者叙勲	瑞宝 双光章	5・5・1

イチゴ狩りです。慎重にもぎ取り、愛おしうに頼張る子どもの姿に接し、今後の取組みに元気をもらいました。これからも身も心も健康であり、一日でも長くこの生活を楽しくしていきたいと思います。



(平成三十一年三月退職)

【あとがき】

コロナの感染者症の収束とともに日常生活も少しずつ戻ってまいりました。今年には県内各地の夏祭りや花火大会なども実施の予定です。とても楽しみです。

さて、教育現場は様々な課題に直面しています。中でも部活動の地域移行は確実に進んでいます。大会での合同チームの参加はもはや普通のこととなり、各地区の中総体の大会には、クラブチームの名前が散見され、部活動の地域移行が現実のものとなりつつあることを実感しています。これからますます加速していくと思われまます。

ここ数年、現職の校長先生方とお話する機会がとて減りました。今年はぜひ触れ合う機会を持ち、情報交換に努めながら、退職校長会としてできることを模索していきたいものです。